

## 「移民の子ども」の進路形成と移住形態

—韓国外国人子女教育政策とモンゴル籍児童生徒のトランスナショナルな教育選択—

東京大学大学院 崔佳英

### 1 目的

本報告の目的は、「移民の子ども」の進路形成において、移住先と出身国の教育システムがいかなる影響を与えているのかを分析することである。今日起きている移民現象の一つとして、移住後に定住・永住をするという一方向的な移動ではない、トランスナショナルな移住形態の増加が挙げられる。そうした中で、移民の子どもの教育達成は、移民の受け入れ国における教育の問題のみでは解釈できなくなってきた。本報告は、韓国とモンゴルの間でトランスナショナルな移住形態を見せているモンゴル籍児童生徒の教育選択と進路形成を、韓国の移民政策やモンゴルと韓国の教育システムといったマクロ構造と、移住家族の教育に対する意識というミクロ構造との相互作用から考察することを研究課題とする。

### 2 方法

分析に用いる主なデータは、韓国で短期移民を経験しモンゴルに帰国したモンゴル籍生徒（高校生）の教育選択に関する調査の結果である。具体的には、2011年から2013年にかけて現地で実施した、モンゴル・ウランバートル市に位置する私・公立の中等教育機関のうち韓国語クラスを設けている4校（私立の中・高等一貫校3校・公立学校1校）および韓国人学校1校の教員へのインタビュー調査と、韓国への移住経験を持つ生徒計17名を対象にしたインタビュー調査の結果を用いる。これらの語りから、モンゴル籍児童生徒の韓国からモンゴルへの帰国の動機や移動形式、帰国後の学校選択、高校卒業後の進路希望を中心に分析を行う。

### 3 結果

分析の結果、外国人子女教育政策における中等教育課程と高等教育課程との非連続性が、モンゴル籍児童生徒の進路選択と移動形態における決定要因となっていることが明らかになった。韓国での高等教育課程への進学過程において「外国人労働者の子女」が排除されていることが、かれらに出身国への帰国を促すプッシュ要因として働く一方で、2000年代以降に韓国政府によって推進されている留学生誘致政策は、帰国したモンゴル籍生徒の再移住を促すプル要因になっていた。モンゴル籍の移住家族の移動形態は、韓国の多文化教育の特異な境界設定と「大学の国際化」という二つの制度の狭間で行われる移住家族の教育選択によって発生していると考えられる。

### 4 結論

以上から、モンゴルと韓国の両社会を往復するモンゴル籍児童生徒は、二つの社会を生活空間と捉え、その中で再生産戦略を立てて「教育移民」という、トランスナショナルな教育空間を生きるトランスマイグラーと位置づけられる。移民が教育のあり方に変化を与えるという一方向の関係性のみならず、教育のあり方も国際移動の形式を変えているという現象が見出される。

文献

Castles, Stephen and Mark J. Miller (2009), *The Age of Migration: International Population Movement in the Modern World 4th Edition*, NY: Guilford Press. = (2011) 関根政美・関根薫監訳『国際移民の時代 第4版』名古屋大学出版会。

志水宏吉・山本ベバリーアン・鍛冶致・ハヤシザキカズヒコ 2013 『「住環する人びと」の教育戦略：グローバル社会を生きる家族と公教育の課題』 明石書店。